血液培養から *C.neoformans* が検出された１症例

○松井　直紀,竹内　哲也,坂木　敦美(富岡地域医療事務組合　公立富岡総合病院)

【はじめに】*Cryptococcus neoformans*（以下 *C.neoformans*）は、土壌中に存在する真菌で、鳥類とくにハトの糞中に高率に存在する。ヒトに対する病原性は弱いが、肺や中枢神経に感染し、中枢神経に感染した場合は死亡する症例もある。通常は、喀痰や髄液から検出される例が多いが、今回我々は、血液培養から *C.neoformans* を検出した症例を経験したので報告する。

【症例】85 才、女性。2013 年 1 月自宅で倒れているところを家人に発見され救急搬送となった。主訴 38 度の発熱、意識レベルの低下。脳梗塞、心不全の既往あり。頭部 CT で明らかな出血を認めず。CRP 正常、プロカルシトニン陰性で敗血症は否定的であった為、自宅にて様子を見ることになった。その後、5 日間解熱が見られず全身衰弱が進行し、意思疎通が困難となった為再来院し、精査の為入院となった。

【細菌学的検査】入院時の血液培養が 7 日目に陽性となり（血液培養機器：BacT/ALERT 3D　シスメックス・ビオメリュー)、グラム染色で正円状の酵母様真菌を認めた。陽性ボトルから 5%羊血液寒天培地、クロムアガーカンジダ培地（BD）にて好気培養、チョコレート寒天培地にて炭酸ガス培養、アネロコロンビア血液寒天培地にて嫌気培養を行った。培養 1 日目は全ての培地に発育が認められたが、コロニーが非常に小さかった為、培養 2 日目に墨汁染色を実施したところ、正円状の酵母様真菌に莢膜を認めた。その為、臨床側に *C.neoformans* が疑われるとの報告を行った。後日この菌は同定キットで *C.neoformans* と同定された。

【考察】血液培養から検出される真菌は *Candida spp.* であることが多く、本症例のように *C.neoformans* が検出される症例は稀である。今回の症例では血液培養が陽性となるまでの期間を 7 日間要し、平板培地の培養でも発育が不良であった為、検体提出から結果を臨床側に報告するまでに長い時間を要した。クリプトコッカス症とカンジダ症では、抗真菌薬等の治療のアプローチが異なる為、迅速な結果報告の為には、主治医や薬剤師との情報共有が極めて重要であることを認識できた。